

ジオパーク認定に向けて、東通の魅力を紹介 ～下北ジオパーク構想現地審査～

8月9日(火)から11日(木)に

かけて、下北ジオパーク構想が日本ジオパークへ認定される最終関門となる「現地審査」が行われました。東通村では、10日(水)に審査員が村内のジオサイトを巡りました。

審査では、ジオガイドの氣仙修さんが修験者の衣装を身にまといガイド。軽妙で熱心な語り口で審査員を惹きつけ、ガイド中は笑いが起きるなど和やかな雰囲気でした。

審査員を出迎えた野牛川レストハウスでは、駐車場に設置された案内看板で東通村のジオサイトを説明しました。この看板は普段からジオツアーなどでも活用されているものです。

尻労地区では、尻労漁協前で吉田武美参事をはじめとする漁協職員から歓迎を受けた後、集落内を移動しながら東通村の付加体などの地質資源を体感していただきました。

「ソガマ」と呼ばれる砂浜で、チャート(放散虫の殻でできた岩石)の褶曲(しゅうきよく・衝突の際に地層が曲げられたもの)や、プレート(プレート)の活動、ソガマの名前の由来を解説。そして、集落から猿ヶ森砂丘を一望し、砂丘ができた経緯などを説

明しました。

尻屋崎では、尻屋崎灯台建設にまつわるエピソードや拾い昆布漁のガイドがありました。当日は灯台周辺で寒立馬が群れを成しており、審査員は寒立馬とのふれあいも楽しんでいました。また、尻屋漁協の浜端功参事からは「だしこんぶ」が提供され、尻屋で採れる海産物の素晴らしさについての格好のアピールになりました。

最後は、野牛川レストハウスに戻り、東通村ジオサイトの展示コーナーの解説、そして、ジオ酒「折水」の他、野牛漁協の渡邊代志人参事から外海地まきホタテや天然ホヤなどが振る舞われ、大地と海がもたらす素晴らしい東通村の食を堪能していただきました。

今回の審査結果については、審査員の報告書を基に日本ジオパーク委員会で審議され、9月中旬に可否が発表される予定です。

前回の認定見送りから2年越しの再申請を行った下北ジオパーク構想。下北ジオパークの実現と共に、住民が地域を自慢し、地域を考え、住民主体の活動につなげていくことが期待されます。



ソガマで地質や集落の歴史を説明



案内看板でジオサイトを説明



修験者姿でガイドをする氣仙さん



レストハウスで自然の恵みを堪能



尻屋崎で寒立馬とふれあい



猿ヶ森砂丘を一望